

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	古民家ゆめの森こども園			
○保護者評価実施期間	2025年 9月15日		～	2025年 10月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数)	12名
○従業者評価実施期間	2025年 10月15日		～	2025年 10月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月17日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	農業や手仕事、動物の飼育などさまざまな体験ができるようにしています。いろいろな体験から卒業後の仕事の選択肢や就労への意欲を含む自立に繋がればと思っています。	職員の得意なことを中心に支援の内容に加えたり、農業や動物の飼育も外部の専門家方に来て指導をうけたり、得意な職員に教えてもらったりしながら子ども達が楽しく取り組めるようにしています。また、作業のなかで収穫したものや作品などを食事に入れたり、行事の時の装飾やゲーム等の景品にしたりすることで子ども同士がお互いを認め合ったり、さらなる意欲になるようにしています	夏休みに保護者に来てもらって夏祭りをして作品等を見てもらったり、販売をしたりしました。また、月に1度のマルシェで地域の方々に作品を販売し、自分たちが作ったものが「収入」になる体験をすることで卒業後の仕事を少しでも身近に感じたり、挨拶や言葉遣いを考えたりできるような取り組みを継続しています
2	職員間の仲がよいことで孤立せず助けてほしい時に声が上げやすいことがチームワークに繋がっていると思います。また、仕事面だけでなく、私生活の困りごとや悩みもお互いに話したり、休暇等の取得も相談しやすい環境づくりに心がけているのでワークライフバランスも保てるのではないかと考えます。	支援前やタ方の送迎後に短時間でもその日の子どもの様子や保護者とのやり取りなどをお互いに報告し、共有する時間を作っています。 また職員自身の困りごと本人の許可を得たうえで責任者等に話し面談をしたり、休暇を取りやすくしたりするなど職場環境の良さを感じられるような工夫もしています	支援会議に行く前には（学校や他事業所などに）確認したり、伝えたりすることをそれぞれが感じていないかを簡単に話し合い、児童発達支援管理責任者だけの偏った情報にならないよう気をつけています
3	スタッフ同士がお互いの得手不得手を理解し、常に笑顔でいきいきと仕事ができていることが子どもだけでなく、保護者との信頼関係にも繋がっていると思います。また、保護者とコミュニケーションがとりやすいことで両者ともに相談や、お願いがしやすい関係性を保て、特に当事業所が力を入れている食育についての情報も伝え理解していただいています。	職員間の仲がよいことで孤立せず助けてほしい時に声が上げやすいことが事故予防や虐待予防などよいチームワークに繋がっていると思います。また、仕事面だけでなく、私生活の困りごとや悩みもお互いに話したり、休暇等の取得など相談しやすい環境づくりに心がけているのでワークライフバランスも保てるのではないかと考えます。	食については職員が事業所の代表や外部の講師（ミネラルアドバイザー）から研修をうけながら保護P者に伝えるようにしています。また、食への悩みをもつ保護者からの希望があればアドバイザーからのモニターや指導を受けてもらうことができる連携もしています

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	有資格者が少ないため、専門性や専門知識が乏しいと感じています	経営状況をみながら職員の募集をしなければならず、現在の状況では有資格者を採用することが難しいのではないかと考えます	専門知識が必要と感じる時は相談支援専門員さんに相談して専門機関につないでもらったり、職員の知り合いの専門家の方に相談して研修を受けたりしています
2			
3			